ボーリング柱状図

調　　査　　名　道路災害復旧工事に伴う業務委託

事 業 ・ 工 事 名

ボーリングNo.	5	2	3	3	2	2	7	1	0	0	1

シートNo.

ボーリング名	Bor-H-1	調査位置	広島県庄原市東城町川西地先	北緯	34° 53' 34.5100"	
発注機関	広島県北部建設事務所庄原支所	調査期間	平成29年 3月19日～平成29年 3月25日	東経	133° 16' 03.0570"	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	332.29m	角度	180°(上) 90° 0°(下) 95°	方向	30°北 0° 90° 270°西 東 180°南	地盤勾配	0° 水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機	東邦D-1	ハンマー落下用具	
総掘進長	25.00m								エンジン	ヤンマーNFD-13	ポンプ	東邦BG-3C

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率(%) 最大コア長 cm RQD[%]	岩級区分	孔内水位／測定月日	標準貫入試験 深度 m	打撃回数／貫入量 回/cm	N値	原位置試験	室内試験	掘進月日	掘進速度 cm／時	孔径／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧 MPa	回転数 rpm	送水圧 MPa	送水量 l／分	排水量 l／分
	332.29	0.05		コンクリート							表層は吹付モルタル		D															
	332.34	0.60				E	Ⅳ	c		2	45°位の亀裂が多く、GL-0.8m付近細礫混じりの破砕部	0[0]	DH								104	100	HW/D1	0		0	泥水／5	0
	332.35	0.70					Ⅱ	d		4	GL-0.9～1.0m付近は暗黒色の破砕粘土挟む		D								200					0	泥水／5	0
1	332.39	1.20									原岩組織は失われている	5[0]	DH								71							
	332.46	1.90			褐灰	D	Ⅳ	c		2	GL-1.2～1.9m付近は岩片化している										86							
2	332.46	2.00					Ⅴ	d	γ	3	GL-1.9～2.3m付近、破砕され岩片化	6[0]	D								81							
	332.49	2.30				D	Ⅳ	c		2	GL-2.3～3.0m付近、短柱状～岩片コア		DH							3/20							
3	332.55	3.00																										
	332.58	3.30				E	Ⅴ	d		3	GL-3.0～3.3m付近は破砕され砂礫化し、亀裂に沿って赤褐色化する	5[0]	D								106							
	332.64	4.00				D	Ⅳ	c		2	GL-3.3～4.0m付近亀裂多く短柱状が主体		DH								83							
4	332.66	4.20				E	Ⅴ	d		3	GL-4.0～4.25m付近、破砕され砂礫化する	7[0]	D								56							
5							Ⅴ				GL-4.35～7.2m付近は、コアが短柱状となる区間が多く、45°の傾斜で層理面が認められる	6[0]	DH								86							
6					黒	D	～	c	δ	2	GL-5.0～5.2m間は層理面に沿って岩片化する	18[18]	～								60	75	HW/DI					
7	332.91	7.10					Ⅳ						CL															
						C	Ⅲ	b～c			GL-6.3m付近暗褐色の礫混り粘土挟む	10[20]	CM								75							
8	333.01	8.30									全体的に45°の斜め亀裂が多いやや硬質で、ハンマーの打撃により濁音									3/21							
						D	Ⅳ	c	γ		亀裂多く岩片化する	28[28]	DH								60							
9	333.08	9.10																						0	120	0	泥水／5	3
							Ⅲ	b			柱状コアだが全体的に潜在亀裂が分布する	18[43]	CM								75							
10	333.16	10.00																						1	120	0	泥水／5	0
	333.19	10.30					Ⅳ	c				14[14]	CL								95							
	333.21	10.60																										
11								b			GL-10.6m、11.5m、13.4m付近は一部岩片化する	21[40]	CM～CL								62							
									β													118						
12	333.37	12.40									GL-13.5～18.6m付近低角度の亀裂が多くなる	12[22]									128			2	120	0	泥水／5	5
13	333.44	13.20		砂岩・泥岩互層									CM															
	333.47	13.50						c				20[35]	CL								100							
14									～		GL-15.8m付近、亀裂面に沿って岩片化するが、それ以外は柱状コア主体である	22[32]									134							
15									γ			17[50]	CM							3/22								
16	333.73	16.50			灰褐					2		3[60]									81							
17						C					柱状コアだが全体的に潜在亀裂が分布する	17[60]									78							
18							Ⅲ														75							
19								b			GL-19.8～19.85m付近、泥岩を挟む部分で層理面に沿って岩片化するが、砂岩部は柱状でおおむね硬質	20[57]									71							
20												3[60]									59							
21									β		砂岩優勢の泥岩との互層で、石英脈を不規則に挟む	28[69]	CM							3/23	74							
22												18[61]									92			2～1	120	0	泥水／10	10
23												18[53]									51							
24											亀裂面は、風化がわずかで概ね新鮮である	15[45]									86							
																					105			1	120			
25	334.47	25.00										11[31]								3/24	86							